

琵琶湖(湖心部)の水質概況速報(平成30年度(2018年度)第1-2四半期)

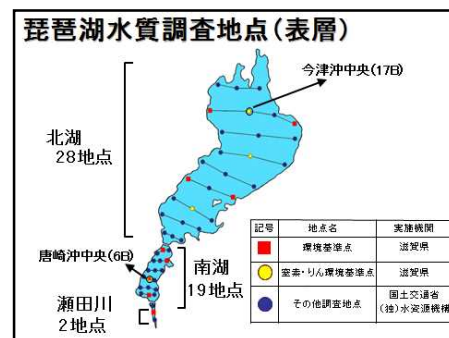
琵琶湖環境科学センターでは、水質汚濁防止法第16条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、北湖・南湖各一地点における平成30年度第1-2四半期分の水質概況速報をとりまとめましたので報告します。

なお琵琶湖・瀬田川水質は北湖28地点、南湖19地点および瀬田川2地点の計49地点において、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は平均値等の代表値とは異なること、後日修正を加えられる可能性があることをご承知おきください。

◎調査方法について

琵琶湖・瀬田川の上記49地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し、表層0.5mでの毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の水深別調査は、当センターにおいては今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約90m地点今津沖中央(通称「17B」、他1地点、南湖では唐崎沖中央(通称「6B」)において、月2回実施しています。



◎調査結果について

当センターで分担実施している北湖湖心部の今津沖中央(17B)、南湖湖心部の唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成30年度第1-2四半期の水質概況は次のとおりです。

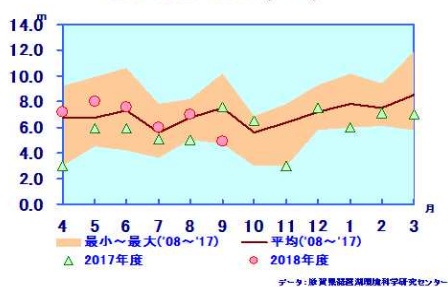
○今津沖中央(17B) 調査結果

透明度については、8月までは過年度(過去10年間)平均値並みで推移していましたが、9月は過年度最低値付近の低い値となりました。透明度に関連する浮遊物質量(SS)も同様に、8月までは過年度並みに推移し、9月には過年度最高値並みの高い値となりました。9月の変動は8月下旬以降に襲来した台風の大雨による濁水流入による影響と見られます。

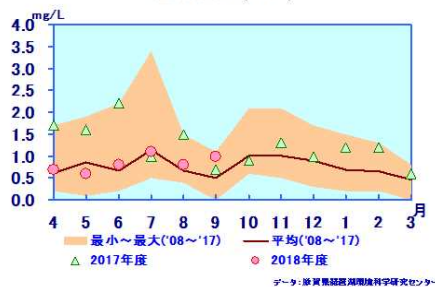
有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)は、5~7月は過年度平均値並みで推移していましたが、8月から低下し、9月は過年度最低値より低い値(2.4 mg/L)でした。

富栄養化項目については、全窒素(TN)が、昨年度に引き続き低い状況が続き、特に7月は過年度最低値(0.17mg/L)を大きく下回る0.14mg/Lまで低下しましたが、9月には過年度最高値に近い値に上昇しました。一方で、全窒素の一部である硝酸態窒素(NO₃-N)については、過年度平均値より低い値で推移し7~9月には枯渇した状態になりました。全りん(TP)も、過年度平均値より低い状態で推移し、特に5、7月は過年度最低値を下回る低い値となりました。

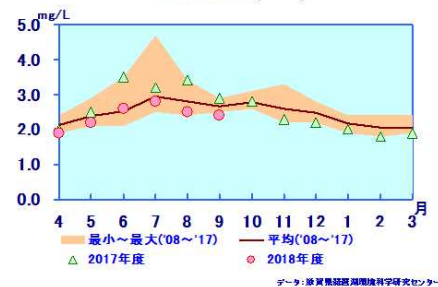
透明度経月変化(17B)

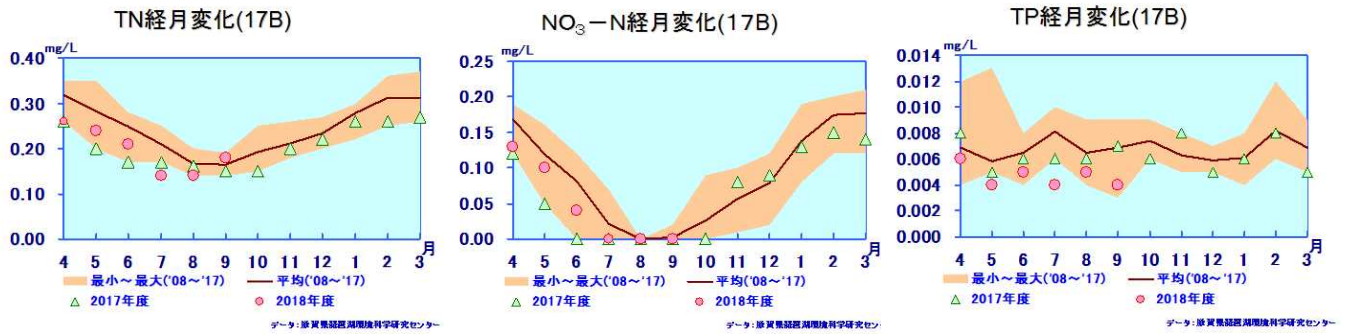


SS経月変化(17B)



COD経月変化(17B)





○唐崎沖中央(6B)調査結果

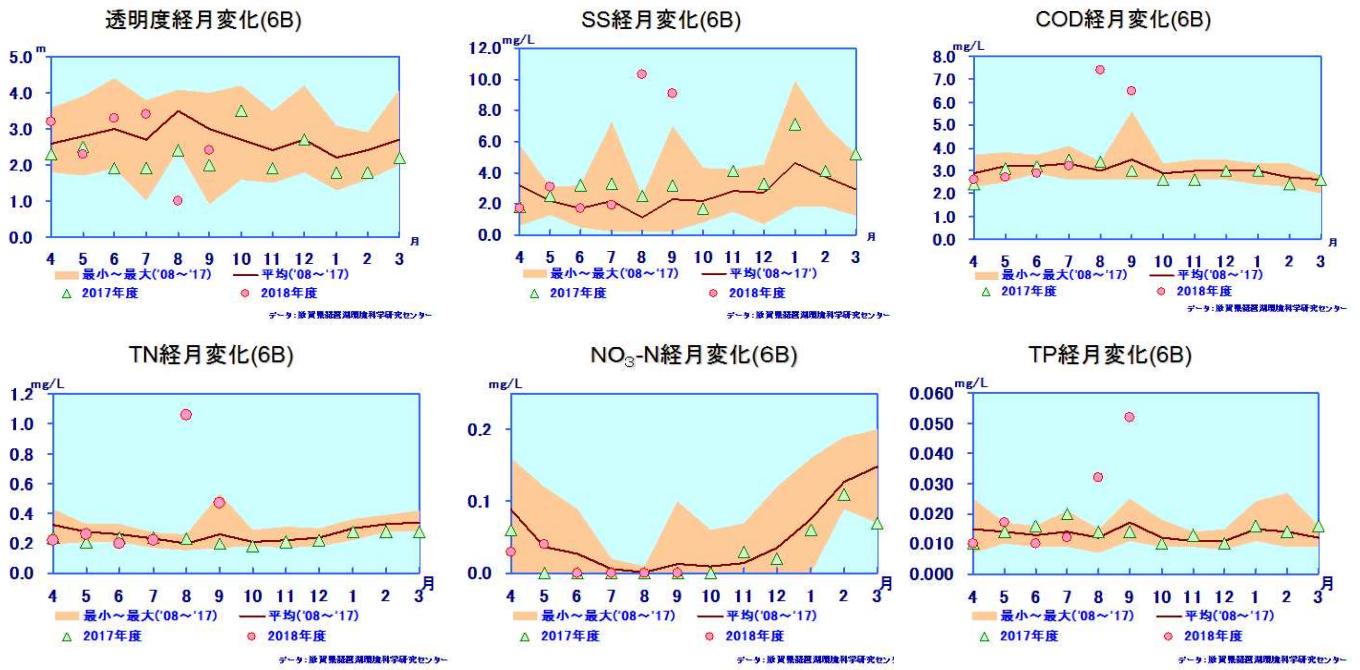
透明度については、7月まで過年度平均値を挟んで変動していましたが、8月には過年度最低値(2.4m)を大きく下回る1.0mまで低下しました。SSについても、7月までは過年度平均値を挟んで変動していましたが、8月が10.3 mg/L、9月が9.1 mg/Lと過年度最高値を大きく上回りました。

CODも、7月までは過年度平均値か、それよりやや低い値で推移していましたが、8月が7.4 mg/L、9月が6.5 mg/Lと過年度最高値を大きく上回りました(CODの7.4mg/Lは調査を開始した1979年度以降でも最高値)。

全窒素(TN)も、7月までは過年度平均値か、それよりやや低い値で推移していましたが、8月は過年度最高値を大きく上回り、9月は過年度最高値付近の濃度となりました。硝酸態窒素(NO₃-N)については、7~9月ともに定量下限値未満(0.01 mg/L)となり、枯渇した状態が継続していました。

全りん(TP)も7月までは過年度平均値を挟んで変動していましたが、8、9月とも過年度最高値を大きく上回る0.032 mg/L、0.052 mg/Lとなりました。

8~9月にかけての各項目の特異的な上昇(透明度は低下)の要因は、藍藻類の*Anabaena affinis*(アナベナアフィニス)が南湖で増殖したことによるものと考えられます。



《問い合わせ先》 〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学センター環境監視部門 公共用水域係

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: de51400@pref.shiga.lg.jp